

ニューランドスカ  
ツプ

シュシ・スライマン

NEW LANDSKAP  
SUSHI SLIMAN

2023年 9/16 土 - 11/12 日

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）※10/7は「尾道灯りまつり」に合わせ20:00まで開館

休館日：月曜日（9/18、10/9は祝日のため開館）

観覧料：一般 / 800円、学生 / 550円

※中学生以下無料

※70歳以上、各種手帳（マイロID可）をお持ちの方は証明できるものを提示により無料。

※団体（20名以上）は各100円引き。

※前売りは各200円引き。販売所は、中国新聞販売所（取り寄せ）、啓文社各店、JR尾道駅観光案内所、生協ひろしま

主催：シュシ・スライマン展実行委員会、中国新聞備後本社

後援：広島県、尾道エラエム放送、ちゅびCOMおのみち、エフエムふくやま

助成：公益財団法人 花王 芸術・科学財団、公益財団法人 三菱UFJ 信託地域文化財団、公益財団法人 朝日新聞文化財団

協力：尾道市立大学、AIR Onomichi、光明寺會館、小山登美夫ギャラリー

COCORONOMICHI

COCORONOMICHIとは、一人ひとりが尾道市への愛と誇りを抱くことを目的とした「シェアック・プライド」キャンペーンです。

尾道市立美術館  
ONOMICHI CITY MUSEUM OF ART



# NEW LANDSKAP シュシ・スライマン shooshie sulaiman ニューランドスカップ

渡り鳥の到来は風景を更新させ、そして渡り鳥自身もいつしかこの風景の一部になっていく。

なぜこの廃屋だったのか。なぜ尾道なのか。このプロジェクトを巡り、これから何が起きていくのだろうか。これまででもそうであったように、計画では捉え難い出来事の連鎖が起きていくことだろう。振り返ると一つ一つの出来事は「兆し」(マレー語でベタンダ)としてすでに現前していたのだった。アーティストの存在がすでに忘れてしまっていたものや失われゆくものへの入り口を開いていくかのようでもある。

マレーシアのアーティスト、シュシ・スライマンの尾道での10年間にわたる創作活動を展示する展覧会「NEW LANDSKAP ニューランドスカップ シュシ・スライマン展」を開催します。タイトル「LANDSKAP」はマレー語で「風景」を意味しますが、アーティストの想像力は文化的な基層にも及び、「LANDSKAP」は視覚的要素だけでなく、場の来歴、さらに場に潜在する不可視なエネルギーも包括したのものとなっています。

本展覧会は、アーティストと一棟のごくありふれた廃墟の出会いから始まったプロジェクトの深さと拡がり、尾道市立美術館の空間と再生された廃屋の両方で同時に見ることが出来る絶好の機会となります。

## 同時開催

尾道旧市街斜面地に点在する会場もご覧いただけます。会期中 土日祝のみ11:00~17:00 オープン 入場無料

- 光明寺會館 尾道市東土堂町2-1
- シドラハウス 尾道市西土堂町 13-38
- 書齋(ライティングスタジオ) 尾道市西土堂町10

東京で同時開催

- シュシ・スライマン個展「fake M.」
- 2023年9月1日(金)~22日(金)
- 11:00-19:00 日月祝休
- 小山登美夫ギャラリー 六本木
- 106-0032 東京都港区六本木6-5-24 complex665 2F

シュシ・スライマン略歴  
1977年マレーシア、ムアール生まれ。1996年マラ技術大学にて美術学士号取得。その後マレーシア国美術館のYoung Contemporaries Awardを受賞し、ドクメンタ12(2000)、アジア太平洋現代美術トリエンナーレ(2000)、光州ビエンナーレ(2004)、シンガポール・ビエンナーレ(2001、2002)に参加するなど国際的に活躍。日本では1998年に茨城のアーカスプロジェクトに参加したほか「エモーション・ドローイング」(東京国立近代美術館・京都国立近代美術館、2008)、「サンシャワー」(東南アジアの現代美術展1980年代から現在まで)(国立新美術館・森美術館 東京、2017)、同年ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」(横浜美術館、神奈川)の出演で知られ、また、2013年から「AIR Ononichi」に継続して参加。主な個展に「Sulaiman itu Malay/Sulaiman was Malay」(小山登美夫ギャラリー・シンガポール、2016)、「Malay Mawani」(カディスト美術財団・パリ、2016)、「Main Getah/Rubberscape」(Museum MACAN Children's ArtSpace・ジャカルタ、2016)、「赤道の伝承」(小山登美夫ギャラリー、東京、2021)など。

## 関連イベント

トーク1  
「Fake Migration シュシ・スライマンのアート」  
9月16日(土)14:00~16:00  
登壇者:シュシ・スライマン 蔵屋 美香(横浜美術館館長)

トーク2  
「ORGANIZING ABANDON 空き家の再生/転生」  
9月23日(土・祝)14:00~16:00  
登壇者:シュシ・スライマン、小野 環(尾道市立大学教授) 豊田 雅子(NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事)

トーク3  
「Re-visit history 尾道の知られざる歴史」  
10月1日(日)14:00~16:00  
登壇者:シュシ・スライマン、梅林 信二(尾道市立美術館学芸員)、小野 環、西井 亨(尾道市遺跡発掘調査研究所所長)

\*トーク開始時に土堂小学校児童による校歌斉唱があります。  
トーク1-3の会場は尾道市立美術館 2F ロビー 参加無料(要 展覧会観覧料) 予約不要

こどもと大人の鑑賞会  
10月8日(日)、10月29日(日) 両日とも14:00~15:00  
こどもたちを対象にした鑑賞会です。鑑賞資料をもとに、作品鑑賞していただけます。  
中学生以下対象 参加無料 予約不要 付添いの方1名は無料で入館

NEWLANDSKAP ツアー  
9月17日(日)、9月24日(日) 両日とも14:00~16:00  
美術館から山手地区を歩き、シュシ・スライマンの活動サイトを巡ります。  
参加無料・申込み不要  
当日13:50に美術館前に集合

尾道市立美術館 公式ホームページ 【ご来館のお客様へ】  
新型コロナウイルス感染症の予防・拡大防止のため、イベント等の中止・変更や、やむを得ず展示室内の入場制限を行う場合がありますのでご了承ください。  
最新情報は美術館公式ホームページをご確認ください。  
<https://www.onomichi-museum.jp/>



【公共交通機関】  
◎ JR山陽本線「尾道駅」から東行きバス(①番のりば)で「長江口」下車、千光寺山ロープウェイで千光寺公園へ。  
◎ JR山陽本線「尾道駅」/JR山陽新幹線「新尾道駅」から、タクシーで約15分。  
※美術館最寄りの「千光寺公園」行きバスは便数が少ないため、ご注意ください。  
【自動車】  
◎ 山陽自動車道・尾道ICから約20分、福山ICから約15分  
※千光寺山ドライブウェイ経由で「千光寺公園駐車場(有料)」をご利用の場合、入館時に駐車券の提示で1名限り200円割引。

ONOMICHI CITY MUSEUM OF ART 尾道市立美術館  
〒722-0032 尾道市西土堂町17-19 千光寺公園内 Tel.0848-23-2281